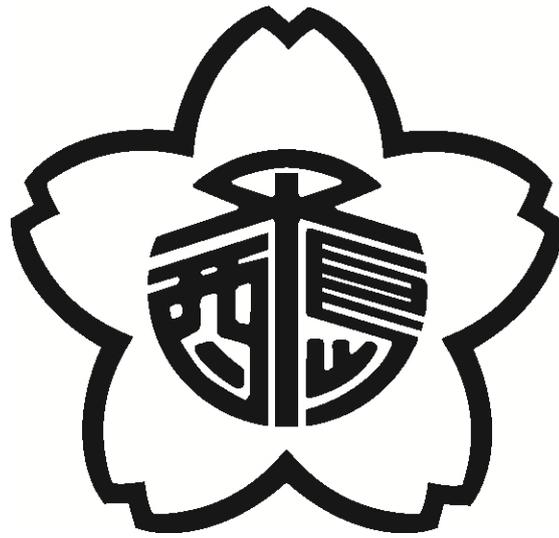


令和7年度

「運営に関する計画」  
(最終評価)



大阪市立 西島小学校

令和7年3月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

【安全・安心な教育の推進】では児童アンケートにおける「いじめは絶対にダメだと思う」に対して最も肯定的な回答は80%であったが、肯定的な回答は90%を超えている。いじめはいけないことだと思っている児童は多い。「自分には将来の夢がある」に対して肯定的な意見は86%と指標を上回るが、高学年は否定的な意見の割合が増えている。「学校のきまりを守る」に対して肯定的な意見は91%と高かったが、今後も日々の指導をきめ細かく行っていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】では授業検討会、授業研究会、研究討議会を年間計画通りに実施することができ、児童アンケートでは「国語が好き」と肯定的に答える児童の割合が89%であった。今後も授業のさまざまな場面で話し合い活動の時間を設けていくとともに、より効果的な「対話的な学び」について検証していく。「運動することが好き」に対する肯定的な意見は多いので今年度も、学年の実態に応じた学習カードを活用し、運動委員会の集会時の取り組みを通して児童が興味をもち進んで運動に取り組むことができるような工夫を考えていく。

【学びを支える教育環境の充実】では学習者端末を活用する割合が昨年度の使用率から年平均60%以上増加している。増加した要因として、全ての教科、領域の学習や連絡帳、アンケートで増えていることが挙げられる。学校教育アンケートの「読書は好きですか。」の項目において肯定的に答える児童の割合が74%で、指標を1%下回った。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査、大阪市学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。
- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を86%以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、令和3年度より各教科で2ポイント増加させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査の「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- ・授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%以上にする。(R6 33.6%)
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76.5%以上にする。
- ・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より10ポイント増加させる。
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、令和7年度末に90%にする。(R5 89.7%)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(R6 75%)
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・大阪市学力経年調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。(R6 84.5%)
- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査・大阪市学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R6 78.1%)
- ・令和7年度の小学校学力経年調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を86%以上にする。(R6 85.8%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、令和3年度より2ポイント増加させる。  
(R3 国語-14.6%、算数-17.7%)
- ・令和7年度の大阪市学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。(R6 3年のみ達成)
- ・令和7年度の大阪市学力経年調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。  
(R6 63%)

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%以上にする。(R6 33.6%)
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76.5%以上にする。(R6 74%)
- ・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より10ポイント増加させる。(R3 59%)
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、令和7年度末に90%にする。(R5 89.7%)

## 3 本年度の自己評価結果の総括

「いじめ・いのちについて考える週間」を設定して取り組むとともに、日頃から命の大切さを学習活動や学校生活を通して伝えた。そのことにより、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と肯定的に思える児童の割合を増やすことができた。児童がより安心・安全に学校に通えることで、「学校に行くのが楽しい」と感じながら友達と学びを深め合え、昨年度以上に意欲的に学習できた。

学校行事等の多くの教育活動の場で、PTAや地域みなさんにご協力いただき、「学校が家庭・地域との連絡を密にとっている」と答える保護者の割合を増やすことができた。登下校だけでなく地域の方、保護者の方に児童が温かく見守っていただいていることが児童の安心感につながっていると同時に、地域や家庭により愛着をもてる児童が増えた。

教育成果を上げるとともによりよい教職員の労働環境を整えることが難しく、昨年度より改善しているところがあるが、課題が残っている。

## 大阪市立西島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の全国学力・学習状況調査・大阪市学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(R6 75%)</li> <li>令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。(R6 84.8%)</li> <li>令和7年度の全国学力・学習状況調査・大阪市学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R6 78.1%)</li> <li>令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「将来の夢や目標を持っていますかの項目について肯定的に答える児童の割合を86%以上にする。(R6 85.8.%)</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学校教育活動のあらゆる機会を捉えて、互いに違いを理解し認め合うこと、「自分だけがかけがえのない存在である」、いじめはどんなことがあっても絶対に許さないとすべての児童が実感できる人間関係づくりを構築し、いじめを許さない児童を育む。各学期にいじめを考える週間を設定するとともに、日々の生活の中でもいじめに繋がる言動には指導と啓発を行い、いじめの定義についても児童に伝えるようにする。</p> <p>指標 令和7年度小学校全国学力・学習状況調査・校内調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学校教育活動のあらゆる機会を捉えて、生活規律や学習規律を重んじ、互いに意識を高めあいながらきまりを守れる児童を育む。きまりを守ることで、児童一人ひとりが気持ちよく学校生活を送れるように支援を行う。校内の掲示物や児童朝会の講話等で、児童に対しての啓発を行っていく。児童の実態について職員同士で定期的に共通理解を図り学校のきまりについて児童が守りやすいように改定する。</p> <p>指標 令和7年度小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりをしっかりと守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。</p>	C
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>日々の学校生活において、一人ひとりが互いのよさを認め合った上で、自分や友だちの長所や進歩、頑張りなどを認め、自分への肯定的な気付きを促していく。また他者とかかわる中で、自分のよさに気付かせる。児童に対して明るい挨拶や人権を尊重した名前前の呼び方をするなど、児童の長所や努力している姿を積極的に探し、本人や周りに伝</p>	

<p>えていく。頑張ったときや何かができるときには積極的にほめるなどの声掛けをこまめに行うようにする。</p>	B
<p>指標 令和7年度小学校全国学力・学習状況調査・校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】          職場講話・職場見学・職場体験等、職業に関連したキャリア教育を充実させ、児童が教育活動の中で多様な活動ができるよう取り組みを進める。          スポーツや生産活動、ICTに関連する事柄など様々な社会活動の取り組みを児童に紹介できるように、職員間で情報を共有する。</p>	C
<p>指標 令和7年度小学校学力経年調査・校内調査の「自分には将来の夢や目標がありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を86%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 各学期に「いじめ・いのちについて考える週間」を設定して、道徳の教材や児童朝会の講和、そして日々の学校生活においても、命の大切さやいじめは許されない行為であることを指導してきた。しかしR7年度の校内児童アンケートの「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答が80%と指標を下回ったが、肯定的な回答を合わせると100%の児童が「いじめはいけないことだ」という考えを持つことができている。また、全国学力・学習調査（最も肯定的80.8%、肯定的17.3%）や大阪市学力経年調査（最も肯定的78.8%、肯定的15.9%）と比較しても本校校内調査では上回ることができた。</p> <p>② R7校内児童アンケートの学校のきまりに関する項目の集計結果では、肯定的な回答が81%、令和7年度大阪市学力経年調査での肯定的な回答が73%と指標の86%に至らなかったが、R7前期校内児童アンケート結果（79%）からは上がっている。しかし児童の実態では、廊下や階段を安全に通行したり、挨拶を進んでしたりする児童は少ない。</p> <p>③ R7校内児童アンケートの「学校に行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に答えた児童は86%、令和7年度大阪市学力経年調査での肯定的に答えた児童は77.5%だった。学年によって差があるが、学校全体では指標の85%以上を上回っている。日常生活のさまざまな場面で、児童の努力したことに対して称賛することで自己肯定感を高めてきた。また終わりの会などで、児童が友だちの努力しているところや、してもらってうれしかったことなどを発表する機会を設けているクラスもある。</p> <p>④ R7校内児童アンケート、大阪市学力学習調査の将来の夢や目標に関する項目の集計結果は84%で指標の86%には至らなかった。社会見学では、消防署や浄水場、放送局など実際の仕事に触れる体験をすることで、キャリア教育につなげることができた。一方で、校内でのゲストティーチャーを迎えての授業や、キャリア教育の回数は昨年度と比較して回数が少なく低学年では仕事に触れたり体験したりできる機会が少ないことが課題である。また、児童が将来の夢や目標というものに対してのイメージが難しく、肯定的に回答できないことも考えられる。</p>	

### 今後の改善点

- ① 校内アンケート前に道徳の題材を取り扱い、いじめやいのちについて学習を重ねていくことで、一定程度の効果があると考えられる。次年度も「いじめ・いのちについて考える週間」を各学期に設定し、日々の活動や生活の中で命の大切さを伝えるとともに、いじめを許さない、絶対にいけないことだと啓発、指導していく。
- ② 学校のきまりについて教職員で共通理解を図り、一貫した指導ができるようにするとともに、児童一人ひとりがきまりを守ることで、安全、安心で気持ちの良い学校生活を送ることができるよう児童に伝えていく。また今後も、運営委員会による「あいさつ週間」や「安全生活週間（月間）」の活動を継続していきたい。
- ③ 今後も継続して、児童一人ひとりを認める声かけや指導を行っていく。また児童が、教職員からだけでなく、友だちに認められることで、学校が楽しいと感じられるよう、お互いを認め合えるような場면을教科の学習にも取り入れていく。

今後も社会見学など学習を通して、仕事に関するキャリア教育を充実させていきたい。ゲストティーチャーを招いての学習については、抽選等の都合で年度によって実施回数に偏りができることもある。そこで、児童が将来の夢や目標を意識しやすいようにキャリアパスポートの内容に「次の学年の自分はどうなっていたいか」（次の学年に向けてどうしていくか）という項目を設ける。遠くの将来だけでなく、近くの目標を設定することで児童が見通しを持って、自分に合った目標を目指せるようにしていきたい。

## 大阪市立西島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、令和3年度より2ポイント増加させる。 (R3 国語-14.6%、算数-17.7%)</li> <li>令和7年度の大阪市学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。(R6 28.6%)</li> <li>令和7年度の大阪市学力経年調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。(R6 69%)</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>今年度の校内の研究教科を国語科に設定し、計画的に指導案検討会・授業研究会・研究討議会を実施したり、必要に応じてスクールアドバイザーをお招きしての研修会を持ったりしながら、児童にとって分かりやすい指導法について全校をあげて研究を進めていく。</p>	<b>A</b>
<p>指標 令和7年度の単元テスト(国語科)の思考・判断・表現に関する項目の平均正答率を前年度より上回る。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>今年度の校内の研究の視点の1つに「対話的な学び」を掲げ、児童が自分の考えを深めたり広めたりできるようにするための効果的なペア学習、グループ学習のあり方について研究を進めていく。</p>	<b>A</b>
<p>指標 令和7年度の校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の管理】</p> <p>各学年学習カードを活用して体育の授業を行い、児童が進んで取り組むことができるようにする。また、年に2回、運動委員会が集会の時に、技がうまくできるコツや難しい技を紹介することで、児童が興味をもち、進んで運動に取り組むことができるようにする。</p>	<b>C</b>
<p>指標 令和7年度の校内調査「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① R6年度の2学期単元テスト（国語科、3～6年）の思考判断表現に関する項目の平均点が76.8点、本年度が80.3点と、指標を上回っている。5月に、今年度の校内の研究について職員会議で共通理解を図ったこと、スクールアドバイザーをお招きし、説明文についての指導法の基本について学んだこと、また、1～5年生において、授業検討会、授業研究会、研究討議会を実施し、児童にとって分かりやすい指導法についての研究を計画的に進めてきたことが、指標を上回ることに繋がった。
- ② R7後期校内児童アンケート内の対話的な学びに関する項目の集計結果では、最も肯定的に回答する割合が47%と、指標の35%、また、前期アンケートの45%も上回ることができた。各学年が意識して、授業のさまざまな場面で話し合う活動に取り組むことで、児童が自分の考えを深めたり広げたりすることができる場面を増やすことができた。
- ③ R7後期校内児童アンケート内の「運動をすることが好きですか」の項目の集計結果では、最も肯定的に回答する割合が54%と、指標を下回っている。体育では、かけあし運動やなわとび運動の折には、学年の実態に応じた学習カードを作成、活用しながら学習に取り組んだり、運動委員会が集会時に楽しく運動できる技やコツなどを紹介したりしながら、楽しく運動ができるよう取り組んできた。指標は下回ったが、肯定的に回答する割合は81%と高い水準を維持している。また、休み時間の様子を見ると、冬の寒い時期にも、運動場に出て、活発に活動する児童が多く見られた。

今後の改善点

- ① 次年度も授業研究会を中心に取り組みながら、児童にとって分かりやすい指導法について研究を進めていく。また、今回の指標では、1,2年生の結果が反映されていないので全学年の結果が反映されるような指標を考えていく。
- ② 今後も継続して、授業のさまざまな場面で話し合い活動の時間を設けていく。
- ③ 今後も学年の実態に応じた学習カードを活用したり、運動委員会が集会時にいろんな技がうまくできるコツや難しい技を紹介したりする取り組みを通して児童が興味をもち、進んで運動する児童が増えるよう取り組みを継続していく。また、今年度の放課後から一輪車が使えるようになるなど環境も整備している最中である。

## 大阪市立西島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%以上にする。(R6 33.6%)</li> <li>・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76.5%以上にする。(R6 66.8%)</li> <li>・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より10ポイント増加させる。(R3 59%)</li> <li>・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、令和7年度末に90%にする。(R5 89.7%)</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① <b>【6. 教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</b></p> <p>スクールライフノートの「心の天気」やデジタルドリルなどを毎日取り組み、1日1回以上学習者用端末を活用する。3・4・5・6年生は、端末を持ち帰る日を設定して、家庭でもデジタルコンテンツに取り組んでいけるようにする。</p> <p>指標 授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の34%以上にする。</p>	<b>A</b>
<p>取組内容② <b>【8. 生涯学習の支援】</b></p> <p>朝の読書タイムや定期的な読書週間を設定したり、火曜日15分休み・昼休みの図書館開放・図書委員の読み聞かせ活動・外部機関のお話会などを行ったりすることで、児童が本に親しみ、読書する習慣を身につけられるようにする。また多くの本が読めるように学級文庫や図書の蔵書の充実を図る。</p> <p>指標 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76.5%以上にする。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容③ <b>【9. 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</b></p> <p>学校だよりや学年だよりを定期的に発行したり、学校ホームページに児童の日々の活動をアップしたりして、学校の取り組みや児童の様子を家庭・地域に発信していく。</p> <p>指標 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より10ポイント増加させる。</p>	<b>A</b>
<p>取組内容④ <b>【7. 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <p>教職員が分担して仕事を行えるように校務分掌を見直し、一人ずつの仕事量の軽減に努める。また、教職員が部会などのチームで動くようにすることで、教職員のつながりを深め、ストレスのためにくい職場にしていけるようにする。</p>	<b>C</b>

<p>指標 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、令和7年度末に90%にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① スクールライフノートの「心の天気」やデジタルドリルなどを毎日取り組み、1日1回以上学習者用端末を活用した。2学期以降全学年で端末を持ち帰る日を設定して、家庭でもデジタルコンテンツに取り組んでいけるようにしてきた。結果として8割以上が学習者用端末を活用した日数が48%と指標を上回った。</p> <p>② 校内調査のアンケートで肯定的に答えた児童が72%、大阪市学力経年調査で肯定的に答えた児童が64.4%と指標を下回ったが朝の読書タイムや定期的な読書週間を設定したり、児童同士の学級での読み聞かせの活動を行ったり、火曜日15分休み・昼休みの図書館開放・図書委員の読み聞かせ活動・シフカブールカさんのお話会などを行ったりすることで、児童が本に親しみ、読書する習慣が少しずつ身についてきているように感じられる。</p> <p>③ 校内調査の保護者アンケートでは、91%が肯定的に答えている。これからも継続して取り組みを行っていく。</p> <p>④ 学校長を中心に校務分掌の見直しを行っている。会議の在り方についても検討し、少しずつ会議の数が減ってきている。しかし、仕事量に差があることはまだまだ改善されていない。基準2を満たす教職員の割合を見ても87.5%と目標の90%を下回っている。年間残業時間が300時間以上の教員が9名もいる。</p>	
<p>今後の改善点</p>	
<p>① 次年度も継続して取り組む。</p> <p>② 次年度も継続して取り組む。</p> <p>③ 情報面はスムーズに情報を伝えているが、個人のスマートフォンやタブレット、カメラ等の機器の使用ができなくなり、学校ホームページや写真の掲示など児童の日々の活動を発信するのが以前よりかなり困難になっているので、今後の情報機器等の整備について検討をしていく。</p> <p>④ 次年度も、偏りを見直し、教職員が分担して仕事を行えるように校務分掌を見直し一人ずつの仕事量の軽減に努めていく。ゆとりの日の設定の仕方を、再検討していく。</p>	